

令和5年産 麦作情報総括号

令和5年11月 1日
宮城県石巻農業改良普及センター
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/



技術情報はこちらから

気象経過と生育概況

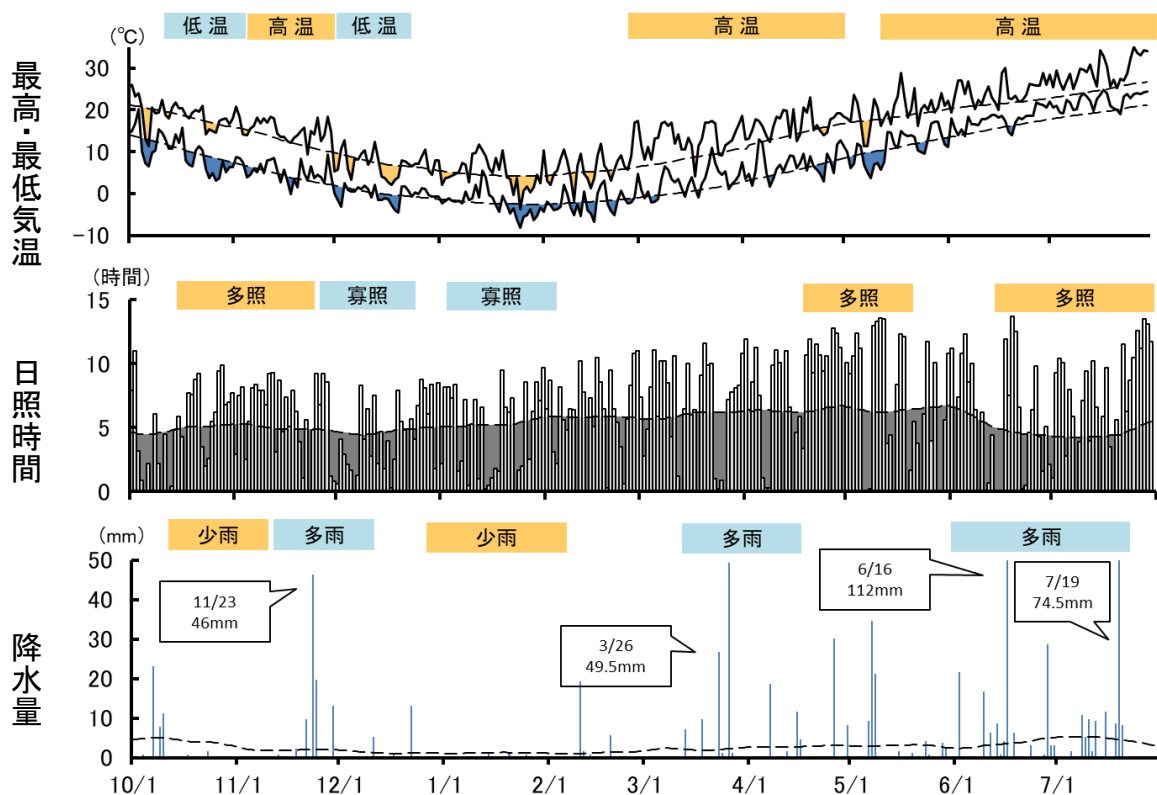
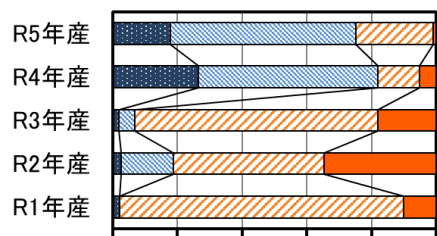


図1 麦類生育期間の気象経過(アメダス石巻)

○越冬前(10～12月)

- ・10月は気温、日照時間が平年並み、降水量はかなり少なくなった。
 - ・11月は気温、日照時間、降水量すべてが平年より高く(多く)なった。
23日に46mmの降雨があり、中旬にまとまった降雨が見られた。
 - ・12月は気温、日照時間が平年並み、降水量は少なくなった。
- 高温多照により年内生育が確保でき、生育は順調であった。

■10月中旬まで ■10月下旬 ■11月上旬 ■11月中旬以降



0% 20% 40% 60% 80% 100%

図2 時期別は種面積割合

○冬期間(1～2月)

- ・1月は気温、日照時間が平年並み、降水量はかなり少なくなった。
 - ・2月は平年並みの気温、日照時間であり、降水量はかなり少なくなった。
- 穂数の確保が進み、暖冬の影響で生育ステージが前進した。

R5年産は10月中には種
できたほ場が多かった!

○越冬後～成熟期(3～6月)

- ・3月以降は5月上旬にやや低温があった他は高温多照傾向となった。2月から3月上旬にかけて少雨であったが、3月下旬から5月上旬にかけてと6月中下旬は降水量は多めに推移した。
- 高温多照と適度な降雨により生育良好、十分な子実数が確保された。

→ しかし降雨の影響で一部刈遅れた。

生育ステージ

- は種日は平年より早く、管内ではほぼ10月には種が終了しました。
- 幼穂形成期、減数分裂期はほぼすべてのほ場で平年より早い傾向でした。
- 出穂期、成熟期は檜崎のシラネコムギを除いて、7～12日早くなりました。

表1 生育調査ほの生育ステージ

品種	調査ほ		播種日	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期	成熟期
シュンライ	城内	本年	10月7日	2月10日	4月8日	4月16日	5月29日
		前年差	-3日	±0日	-6日	-8日	-5日
		平年差	-14日	-29日	-10日	-11日	-8日
ミノリムギ	高須賀	本年	10月15日	3月20日	4月14日	4月22日	6月5日
		前年差	-7日	-5日	-9日	-12日	-9日
		平年差	-10日	-2日	-10日	-12日	-8日
	真野	本年	10月25日	3月18日	4月13日	4月21日	6月2日
		前年差	+2日	-5日	-8日	-11日	-13日
		平年差	-4日	-3日	-9日	-10日	-8日
ホワイトファイバー	水沼	本年	10月15日	3月18日	4月6日	4月14日	5月28日
		前年差	-3日	+2日	-7日	-10日	-8日
		平年差	-9日	+2日	-9日	-12日	-7日
シラネコムギ	小船越	本年	10月16日	4月1日	4月21日	5月4日	6月30日
		前年差	+6日	-4日	-6日	-4日	±0日
		平年差	-21日	-10日	-11日	-7日	+4日
	檜崎	本年	10月27日	4月4日	4月23日	5月6日	6月24日
		前年差	-4日	-3日	-5日	-3日	-4日
		平年差	-2日	-2日	-6日	-2日	±0日

※赤字は平年よりも早く、黒字は平年よりも遅い又は平年並であることを示す。
 ※平年値は過去5か年の平均。ただしホワイトファイバーは過去4か年平均。

生育調査ほの生育経過

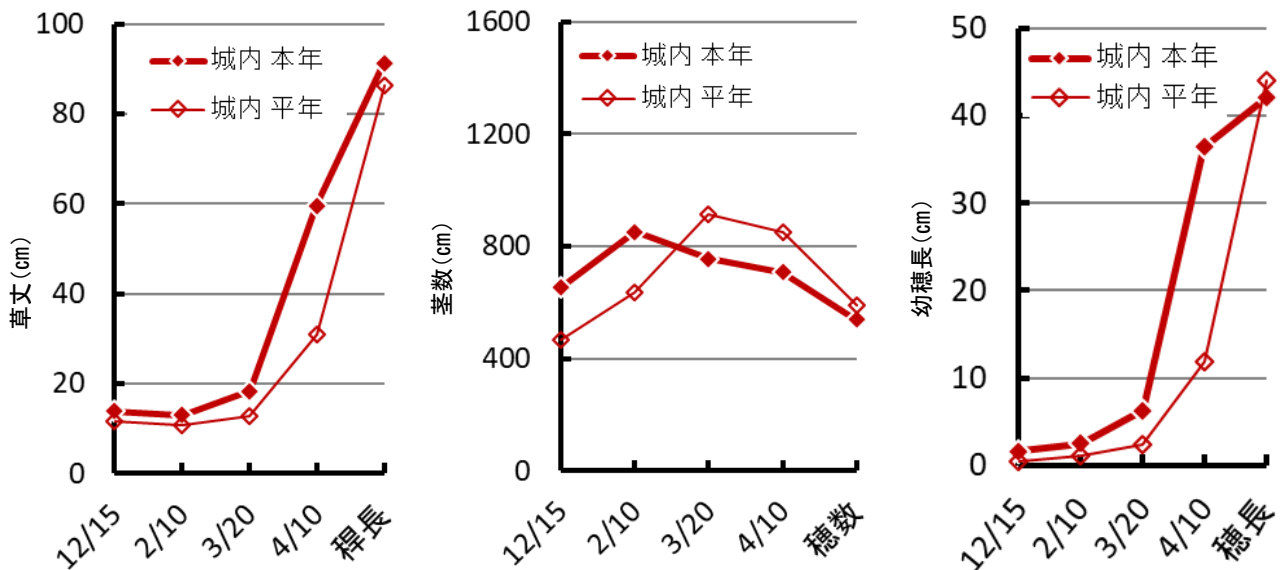


図3 草丈(左)、稈数(中)及び幼穂長(右)の推移(シュンライ)

※ 桃生本年のは種日：10/7(平年差-14日)

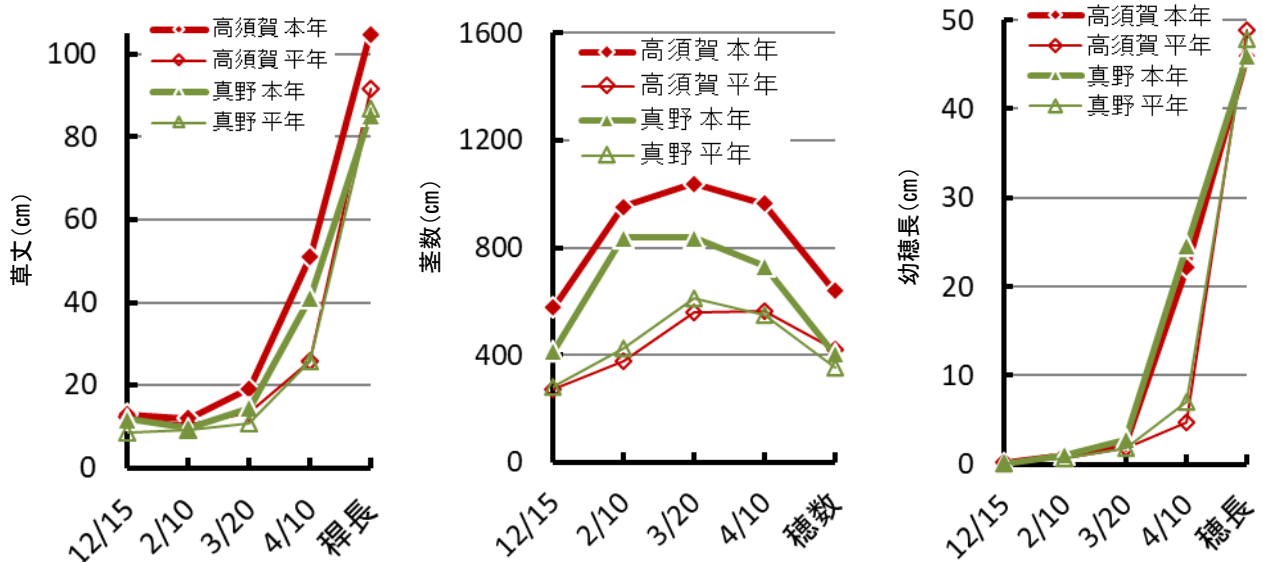


図4 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(ミノリムギ)

※高須賀本年は種日: 10/15(平年差-10日)、真野本年は種日: 10/25(平年差-4日)

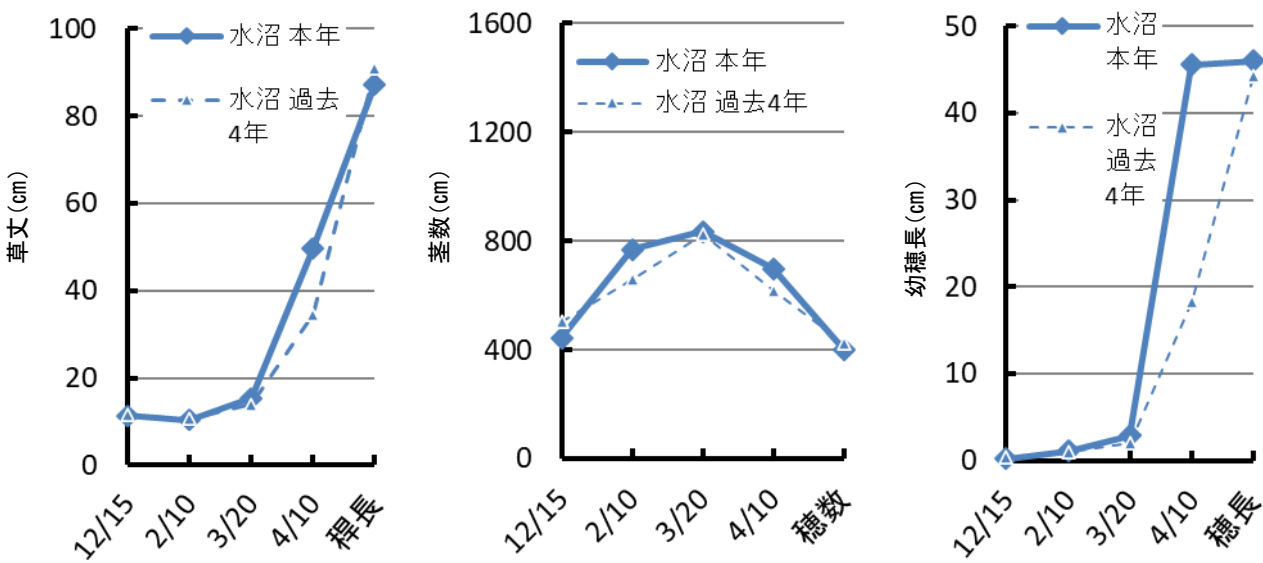


図5 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(ホワイトファイバー)

※水沼本年は種日: 10/15 (過去4年平均差-9日)

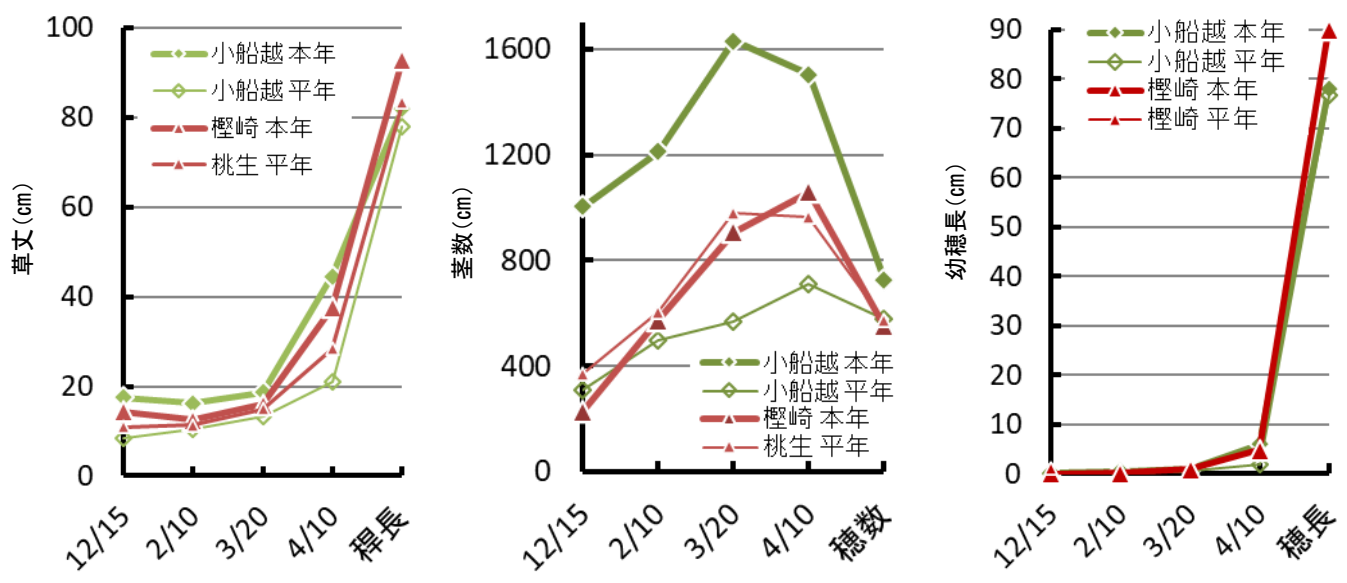


図6 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(シラネコムギ)

※小船越本年は種日: 10/16(平年差-21日)、檜崎本年は種日: 10/27は種(平年差-2日)

収量及び品質

- ◆ 生育調査ほの収量(子実重)は、シュンライ、ミノリムギ、ホワイトファイバー、樫崎のシラネコムギで平年を上回りました(表2)。小船越シラネコムギでは調査区で倒伏があったため、平年・前年を下回りましたが、生産者からの聞き取りでは実収量は平年並みでした。
- ◆ 収量増加の要因として、シュンライ・ホワイトファイバー・樫崎シラネコムギは一穂当たりの粒数の増加、高須賀・真野ミノリムギは穂数の増加に伴い、㎡当たりの子実粒数が増加したことが考えられます。
- ◆ 千粒重は平年並～やや少なく、容積重はおおむね平年並でした。
- ◆ 品質に関して、6月以降の多雨の影響により大麦で刈遅れの傾向が見られ、農産物検査における上位等級(1等・2等)の割合は、シュンライを除き、前年・平年を下回りました(図7)。
- ◆ 特に熟期が遅いミノリムギでは影響があり、上位等級(1等・2等)の割合が平年を大きく下回りました。

表2 生育調査ほの成熟期調査及び収量調査結果

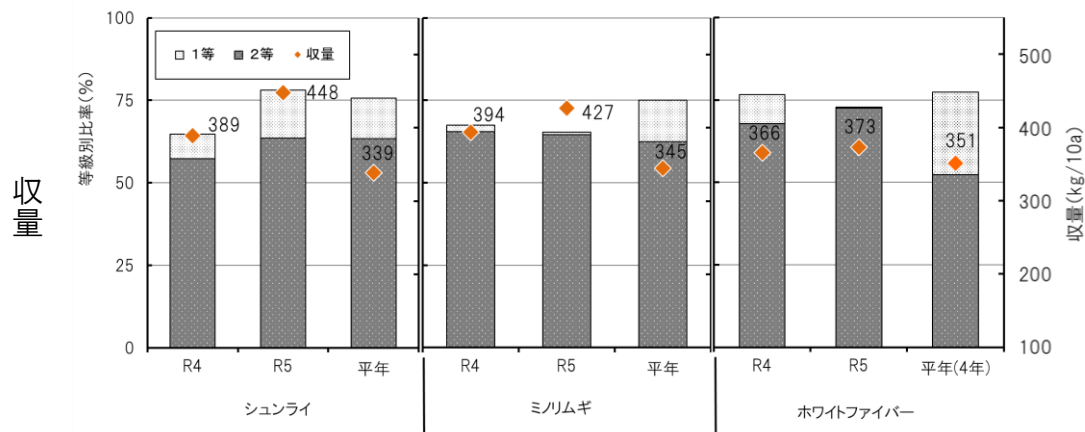
品種(調査ほ)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	子実粒数		千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/㎡)	全重 (g/㎡)	わら重 (g/㎡)
					(粒/穂)	(千粒/㎡)					
シュンライ (城内)	本年	91	4.2	540	37.9	20.5	35.2	676	721	1,399	563
	前年比	107%	95%	75%	185%	139%	90%	101%	126%	87%	69%
	平年比	106%	95%	92%	121%	114%	93%	98%	108%	103%	91%
ミノリムギ (高須賀)	本年	105	4.6	638	41.8	26.7	35.2	688	938	1,834	753
	前年比	98%	98%	112%	105%	117%	104%	102%	158%	117%	107%
	平年比	114%	94%	152%	109%	169%	99%	104%	162%	149%	147%
ミノリムギ (真野)	本年	85	4.6	405	35.3	14.3	35.3	665	505	1,015	406
	前年比	83%	100%	72%	87%	62%	111%	103%	69%	66%	62%
	平年比	98%	96%	114%	104%	115%	98%	102%	116%	103%	100%
ホワイト ファイバー (水沼)	本年	87	4.6	403	40.1	16.1	34.7	656	559	1,191	524
	前年比	86%	98%	83%	104%	87%	104%	100%	90%	88%	87%
	平年比	96%	104%	95%	127%	120%	95%	97%	117%	94%	94%
シラネ コムギ (小船越)	本年	82	7.8	726	11.1	8.1	31.1	767	251	853	422
	前年比	97%	110%	113%	60%	67%	83%	96%	56%	66%	64%
	平年比	105%	102%	126%	42%	53%	81%	95%	43%	64%	79%
シラネ コムギ (樫崎)	本年	93	9.0	551	29.2	16.1	39.9	816	642	1,575	717
	前年比	118%	111%	107%	106%	114%	106%	98%	120%	130%	147%
	平年比	112%	113%	96%	115%	111%	99%	100%	110%	120%	126%

※平年値は5か年平均だが、水沼に限り4か年平均である。

※青は平年より低い(少ない)、赤は平年より高い(多い)ことを示す。

【大麦】

・すべての品種で収量は前年、平年より上回り、1、2等の割合は、少～平年並でした。



収量	多(平年比132%)	多(平年比124%)	多(平年比106%)
1・2等割合	並(平年比103%)	少(平年比 87%)	少(平年比 94%)

図7 石巻管内の大麦検査等級別比率と収量の推移(JAいしのまき農産物検査課調査)

【小麦】

- ・収量はシラネコムギでおよそ平年並、夏黄金で平年を上回りました。
- ・1、2等の割合は、平年より高く、特に両品種ともに2等比率が高くなりました。

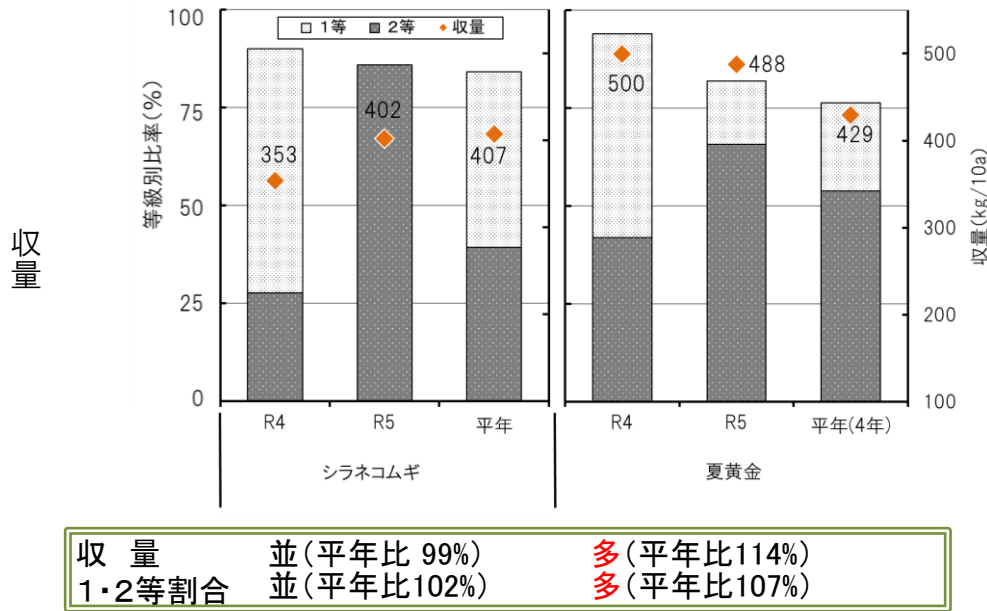


図8 石巻管内の小麦検査等級別比率と収量の推移 (JAいしのみき農産物検査課調査)

作柄概況まとめ

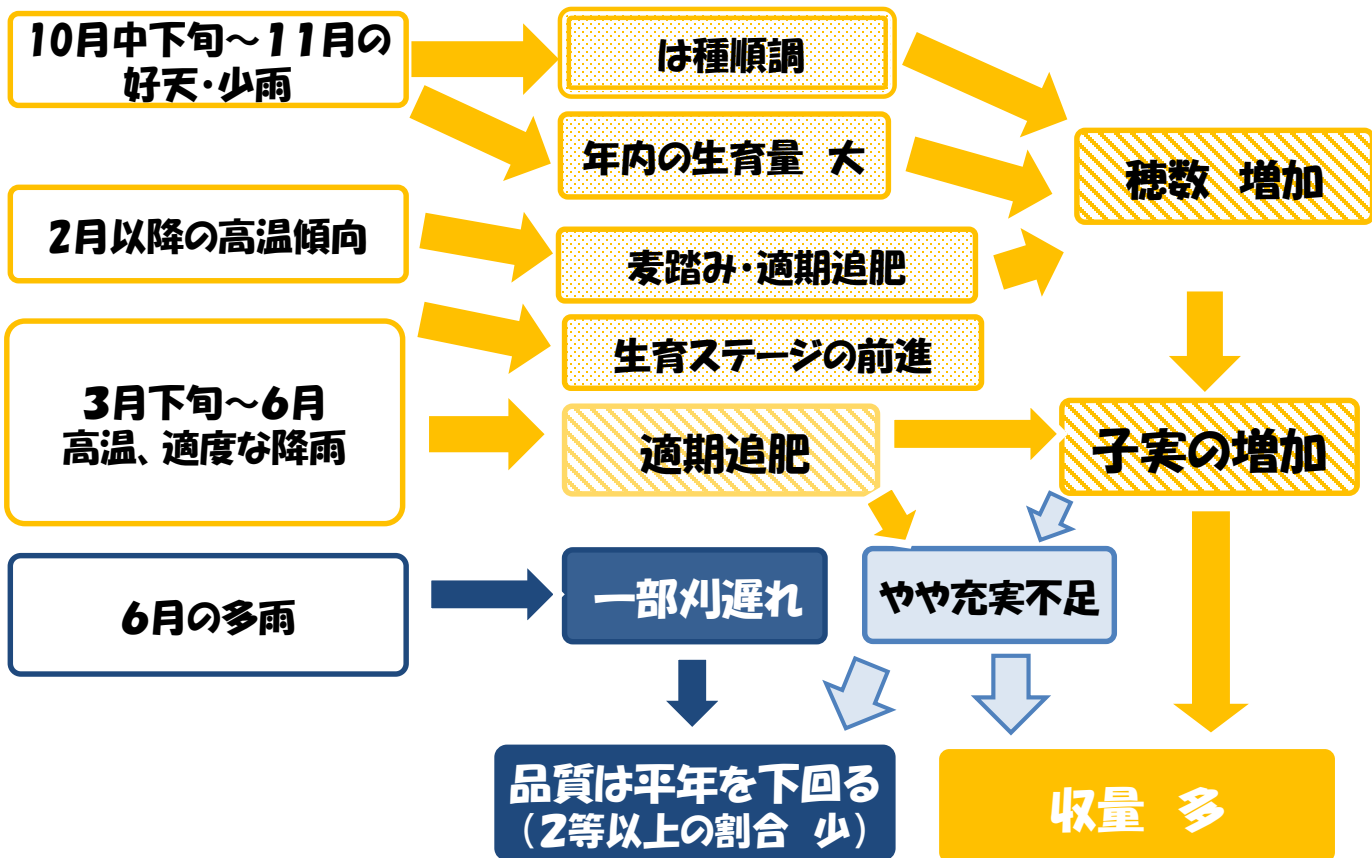


図9 令和4年は種(令和5年産)麦類の作柄解析

◆ 年度によって気象経過は異なりますが、麦類も他作物と同様に**基本技術の励行**が大切です！基本を確認し、適期作業に努めましょう。

○湿害対策の徹底：明きょ、暗きょ

- ◆湿害対策の基本は表面(作土層含む)停滞水の除去です。
- ◆明きょは必ず排水口につなぎ、排水路に水が流れる構造になっているか確認しましょう。
- ◆麦類は土壌が過湿になって酸素が不足すると、発芽不良や、浅根、分けつの減少、葉の黄化、収量・品質低下などが起こります。

排水溝は詰まってないか？

明きょは崩れてないか？
明きょに停滞水がたまっていないか？



表面水が排水されているか
点検しましょう！

図10 排水状況確認チェックの例

○適期刈取：早刈り、刈遅れは品質低下を招きます

- ◆麦類の成熟期及び収穫適期の目安は下図のとおりです。
- ◆早刈りは登熟不足や空洞麦発生による子実重、品質低下、刈遅れは収穫ロス、発芽粒や退色粒の発生、雑菌の増殖、小麦のフォーリングナンバー低下の大きな原因となるので注意しましょう！



○解説

刈遅れにより全体的に白化、退色が見られ、雑菌の繁殖や赤かび粒が発生している

- ・雑菌の繁殖
- ・赤かび粒

図11 適期刈取と品質(ミノリムギ)

○適期追肥：幼穂形成期、減数分裂期、穂揃期(小麦のみタンパク質含有量をもとめるため行う)

- ◆適期に追肥を行い、品質、収量向上を目指しましょう。
- ◆小麦は穂揃期追肥を行い、タンパク質含有率を高めてください。シラネコムギでは減数分裂期追肥を窒素成分で8~9kg/10a程度に増量することで慣行施肥とほぼ同等の子実粗タンパク質含有率が得られ、穂揃期追肥を省略できます(宮城県普及に移す技術第83号)。

シラネコムギ

幼穂形成期 2.5kg/10a(硫安12kg/10a)
減数分裂期 5.0 kg/10a(硫安24 kg/10a)
穂ぞろい期 2.5 kg/10a(硫安12kg/10a)

夏黄金

幼穂形成期 2.5kg/10a(硫安12kg/10a)
減数分裂期 5.0 kg/10a(硫安24 kg/10a)
穂ぞろい期 5.0 kg/10a(硫安24 kg/10a)

図12 シラネコムギと夏黄金の追肥時期と施用量の目安(窒素成分、硫安)